

特別の教科 道徳 授業づくり講座

in 北川村立北川小学校

授業をアップデート!
生きて働く学びを創る!

令和5年10月発行
東部教育事務所

東部管内の
講座情報



道徳科の教材研究・授業研修を深めるために!



「子どもたちが思わず議論したくなる道徳科の問いとは?」「思考を深める効果的な板書とは?」道徳科の授業づくりで、こんなお悩みはありませんか?
今年度の道徳科授業づくり講座では、「道徳科 チームミーティング」の手法を取り入れた演習や協議を通して、深い学びを実現する授業づくりと道徳科の評価のポイントを共に学び、授業力アップを図っています! 8月に行われた北川村立北川小学校の講座の様子をお伝えします。ぜひ、参考にしてみてください!

道徳科 チームミー ティングとは?

※道徳科授業づくり講座
講師である森教授が
考案された手法です

ファシリテーターが参加者の協働的な学び合いを促し、短時間でやっていく教材・授業研究会のこと

- 事前・事後研究シートを活用することで、参加者の道徳科の専門性を磨きます!
- ファシリテーターが、授業者の悩みや課題をもとに協議を進めることで、協働性・同僚性に働きかけます!
- 校内研修であれば30~40分の短時間で実施でき、働き方改革の促進に役立ちます!

[役割] ファシリテーター、教材提供者(授業者)、協議者
[準備物] ボード、マーカー、項目カード、事前分析シート、
教材、タイマー、デジカメ、(あれば指導案)
[時間設定] 校内研修 30~40分

道徳科 チーム ミーティングの流れ



① チームミーティングの流れと教材・内容項目・子どもの実態を確認する

- ・ファシリテーターが、ミーティングの目的や時間設定、役割分担等を伝える。
- ・ファシリテーターが、事前分析シートのうち、まず【教材の概要】と【指導の要点】を全体で確認していく。

② 教材提供者(授業者)が授業づくりに関する悩みを共有する

- ・授業者は、事前分析シートを活用しながら特に悩んでいる項目を伝える。
- ・ファシリテーターは、授業者とやりとりしながら協議する項目を焦点化する。

③ 「事前研究シート」の項目をもとに協議する

- ・授業者の悩みに答えるポイントに絞って協議する。
- ・ファシリテーターは、意見交換を促し、適宜協議の視点の再焦点化を図る。

④ 授業者が取り入れたいことなどをまとめる

⑤ 協議結果を記録・保管

学校からの 提案

授業者 第5学年担任 松岡 誠 教諭

教材名 「折れたタワー」【相互理解, 寛容】
(「小学道徳 生きる力5」日本文教出版)



教材の概要	価値に対して望ましい姿・様子(+) 人の失敗を責めない。許す。	価値の実現が難しい姿・様子(-) 失敗を責める。やり直す。
指導の要点	(何に気付かせたいか、何を引き出したいか) ○失敗したときは誰でもつらい。その気持ちを考えたら、許すことも大切。 ○自分だって間違えたり、失敗したりするときはある。完璧ではない。 ○責め合うのではなく、許し合うことでよい友だち関係になる。	

授業者の悩み

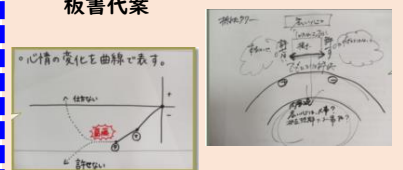
主題に迫る発問と板書に迷っています。
授業者案の ◎中心発問 と ◆問い返し
◎あなたがひろしなら、許すことができるだろうか。
◆ひろしはなぜ許すことができたのだろうか。

ファシリテーター

では、協議シートの中でも、
中心発問・問い返しと
考えを深める板書に絞って、
協議していきましょう!

板書代案

〈協議より〉主題に迫る ◎中心発問 と ◆問い返し
◎「しかたないさ」に込められたひろしの言葉にはどんな思いがあるだろうか。
◎ひろしが許したのはどんな思いからだろうか。
◆どんなときでも「しかたない」と許せるのだろうか。
◆自分はおのりおに責められたのに、本当に許せるか。



代案を取り入れた
ミニ模擬授業も
行いました

様々な問いや板書のアイデアをいただき、価値の深まりが変わってくることを実感しました。自分の悩みを中心に皆さんに考えていただいたことで、様々な気付きがありました。授業に取り入れていきたいです。



授業者

講師の指導・助言

高知大学教職大学院 森 有希 教授



1 考えを深める問い返しについて

深める・・・「どうしてそう思った?」「例えば?」
広げる・・・「○○と○○ではどこが違う?」「○○の立場ではどう?」
揺さぶる・・・「大事だけど実際できないのはどういう気持ちから?」
などの他に、道徳的価値は大切であっても、なかなか実現することができない「人間の弱さ」から問い返しを考えると、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めることができる。

例)【相互理解, 寛容】広い心で他者を尊重することは大切だけど・・・

- ◆「あきらめ」の気持ちであって、本当に許している訳ではない?
- ◆自分も同じ状況なら、同じように相手を責めてもよいのでは?

2 振り返りの視点について

(授業者から新たに出された悩みについてもお話いただきました)

※自由に振り返る場合もあるが、授業者が意図的に視点を指定し自分自身を振り返ることも有効である。

例1 焦点を絞って振り返る

① 自分との関わりで振り返る

- ・今までの自分、今日学んだこと、これからの自分について考えたことを書きましょう。
- ・学習を通して、自分自身のこれからの生活に生かしたいことを書きましょう。

② 多面的・多角的に考えたことを振り返る

- ・友だちの意見でなるほどな、と思ったことや自分に生かしたいと思ったことを書きましょう。

例2 友だちの考えに対して振り返る

- ・○○さんの振り返りを聞いて、思ったことを教えてください。

参加者の声



○これまで、対話を通して深い学びを実現することに課題を感じていた。中心発問では、①心情の変化 ②道徳的価値 に着目することや、①②を組み合わせた発問する手法を学んだ。また、「人間の弱さ」から問い返しをつくり、揺さぶる手立てについては、大変参考になった。授業者が指導の要点を明確にもつことで、ブレずに生徒に考えを深めさせられると分かった。

○自分も板書に悩んでいたのが、他校の先生方と協議でき、様々な工夫を学ぶことができた。時間があつという間に有意義な時間になった。

○道徳科チームミーティングの手法を使えば、校内研修が協議しやすく、組織力や同僚性も高まると感じた。事前研究シートは、個人で教材研究をするときにも役立てたいと思う。